

南吉ゆかりの文学碑等



- ①南吉の下宿先(新田町)
- ②ででむし詩碑(桜町小学校)桜町
- ③牛の詩碑(安城公園)桜町
- ④百姓家の詩碑(新田小学校)新田町
- ⑤南吉うたの碑(桜町小学校)桜町
- ⑥貝殻詩碑(安城中部小学校)大東町
- ⑦生誕百年記念碑(安城高等学校)赤松町

①南吉の下宿先 (新田町)



南吉は昭和13年4月に安城高等女学校へ赴任し、以来一年間は半田の自宅から通勤していた。当時「教員は学校の近くに住んで勤務することが望ましい。」という方針が示されたので、14年4月から碧海郡安城町大字出郷(現、新田町出郷)の大見坂四郎方に下宿することになった。

部屋は長屋門(その左右が棟の長い家屋に接続した門)の一室(八畳一間)で、17年の秋ごろまで借りていたと思われる。この下宿先は今も当時の様子を残し、南吉が顔を洗った井戸もそのまま残っている。

②てでむし碑（桜町小学校）桜町



この詩碑は、南吉の詩碑の中では最も早く建てられたもので、南吉文学碑第一号である。昭和23年11月20日、旧安城高女（現桜町小学校）中庭に、恩師佐治克巳氏、同僚戸田紋平氏および教え子たちによって建碑された。

碑文には、昭和14年2月に発行された生徒詩集第一集の巻頭を

飾った南吉による「てでむし」の詩、「生れいでて／舞ふ蝸牛の触角のごと／しづくの音に／驚かむ／風の光に／ほめくべし／花も匂はゞ／酔ひしれむ」が使われ、当時の書道担当の古寺一華氏が筆をとり、中庭にあった花崗岩に彫られた。

この詩碑を建てるために寄附金を募り、その記念品として「新美原稿用紙」と印刷された私製の原稿用紙が使われた。

③牛の詩碑（安城公園）桜町



この詩碑は、昭和47年に安城文化協会発足25周年を記念して、安城公園内の文学の散歩道の一角に建立されたものである。

詩碑には、書家吉田蒼月氏の筆により、「牛は重いものを曳くので／首を垂れて歩く／牛は重いものを曳くので／地べたをにらんで歩く」と刻

まれている。この詩は「新美南吉詩集 墓碑銘」異聖歌（昭和37発行）に載せられ世に広く知られるようになった。

南吉の作品には、牛に関連したものが多くみられ「牛をつないだ樁の木」「和太郎さんと牛」「花のき村と盗人たち」はその代表的な作品である。南吉は大正2年、「丑」年生まれであった。

④ 百姓家の詩碑（新田小学校） 新田町



この詩碑は、南吉生誕80周年・没後50周年を記念して、平成5年1月31日、安城市立新田小学校の中庭に建てられたものである。

詩碑には、同校校長尾関文啓氏の書により「百姓家」の一部分が刻まれた。「百姓家」の詩は昭和17年10月5日に書かれ、新田町（南吉下宿先ゆかりの

地）の農家の情景が描写されており、制作年月日の判明している詩作品の中では最も死に近い時点での作品である。

新田小学校は長年の図書館活動が認められ、平成4年度東海三県学校図書館奨励賞の総合優秀賞（文部大臣賞）を受賞、これを記念して平成4年度同校P. T. Aによってこの詩碑が建碑された。南吉の文学碑としては安城市では第三番目のものである。

⑤ 南吉のうた碑（桜町小学校） 桜町



桜町小学校は、南吉が在職した安城高等学校（旧、安城高等女学校）が、昭和54年3月赤松地内に移転するに伴い、その跡地に開校した小学校である。

南吉生誕80周年・没後50周年を記念して、平成4・5年度同校P. T. A. により「南吉のうた」庭園が

作庭され、平成5年10月26日、同校校庭にてその除幕式が行われた。この庭園には南吉の代表作「ごんぎつね」に登場する「ごん」と「兵十」の豊かな表情の石像が置かれ、児童たちはこの像に触れて親しんでいる。また、作品にでてくるすすきやひがんばんなどの植物が植えられているのも特色の一つである。

庭の正面に並んで置かれた二基の円形の石碑は、向かって右側には書家戸田提山氏による「南吉のうた」が、左側には安城高等女学校時代の南吉の姿が写し出されている。

⑥ 貝殻詩碑（安城中部小学校）大東町



この詩碑は、安城市立安城中部小学校の校舎の正面に建てられている南吉詩碑である。

「かなしいときは／貝殻鳴らそ／二つ
合せて息吹をこめて／静かに鳴らそ
／貝殻を 南吉」

この詩は、昭和9年12月22日の作で碑面は南吉自筆の詩である。

なお、碑の側面に東海三県学校図書館総合優秀賞受賞記念平成元年度PTAと記されている。この詩の碑は、半田の雁宿公園にも建てられていて、安城と半田を結ぶ素晴らしい詩碑である。安城における南吉第三号碑である。

⑦ 生誕百年記念碑（安城高等学校）赤松町



平成25年12月、新美南吉生誕百年記念として、県立安城高等学校の中庭に建碑された。碑文は昭和14年の詩「寓話」の一節で

「君たちも大きくなると／一人一人
が旅をしなきやならない／旅人に
ならなきやならない」と刻まれている。

安城高等学校の前身は、大正10年に開校した「安城高等女学校」で、南吉は昭和13年4月から昭和18年まで教員として勤めた。同校は昭和54年に現在の赤松町（南方向へ2キロ）へ移転したが、その際校内にあった「ででむし詩碑」も学校とともに移設することとなった。

平成25年の生誕百年を期に、「ででむし詩碑」が、安城高等女学校跡地（現安城市桜町小学校地内）へ再移設されるのに伴い、記念碑制作プロジェクトが立ち上がり、同校生徒による検討会が、碑文を選定した。